Press Release
記者発表資料

きらっと☆とよかわっ！
愛知県　豊川市

令和６年６月25日

豊川市政記者クラブ加盟社　各位

豊川市初

『スタートアップ』×『自治体』地域課題解決に向けた実証事業！
株式会社はんぽさきと地理情報の管理・共有化に関する実証事業を進めます！

豊川市では、スタートアップの革新的な技術の活用を通じて、自治体における課題解決を図り、市民サービス向上・業務の効率化に向けた取り組みを推進しています。

今回、株式会社はんぽさきの技術を活用し、消防署の山岳救助及び農務課の林道管理業務における課題を解決するため、以下のとおり実証事業を進めます。なお、スタートアップとの本格的な実証事業は、豊川市で初めての取り組みです。

◆スタートアップの紹介◆

(1) 株式会社はんぽさき

２０２０年６月１１日に設立された地理情報の共有化にまつわる社会課題を解く会社です。チームが地図上で情報管理をするためのアプリ「ＬｉｖＭａｐ(リブマップ)」のサービスを提供しています。令和５年度の「AICHI CO-CREATION STARTUP PROGRAM2023」のスタートアップとしても採択され、県内の協力自治体等と各種社会課題の解決に向け事業を展開しています。

(2) 共有地図　ＬｉｖＭａｐ（リブマップ）

組織やチームのメンバーが地図上で様々な情報を管理・共有化するためのアプリです。メンバー間で現在位置・写真・地点情報・軌跡などを共有化できることに加え、地図自体を配信することも可能です。

https://livmap.co/

◆実証事業の内容◆

消防署及び農務課農林整備係は、令和５年度にそれぞれの業務課題の解決に向けてＬｉｖＭａｐを試験的に活用し効果等を確認した上で、令和６年度から本格的に実証事業を開始します。

●消防署

山岳救助の課題として、「隊員は登山道や緯度経度などが記載された携行地図が必須」「全体状況の把握は本部のみで、隊員は指示に従って動く形」「無線や電話等で位置や地点を連絡する際に、伝達の齟齬の可能性」「新しい隊員に、登山道、名

称、分岐点などを伝える手間が大きい」などがありました。ＬｉｖＭａｐを活用することで、山岳救助の各隊員の位置情報や登録した写真等がグループで確認できます。また、現場から離れている消防署でも救助の状況がリアルタイムで把握できるなど、円滑な救助活動が可能となります。

できること

●山岳救助事案発生時に必要な地図をＬｉｖＭａｐに搭載した（消防署内で利用していた　ＰＤＦをはんぽさきがＧＩＳデータ化し、消防署のグループに配信）。

●その背景地図上で、分岐点や目標地点などの写真を登録。

●地点上で隊員の現在位置情報などの共有化が可能に。

効果

●本部のみならず山に入る隊員も含めて現状を包括的に把握し、自律的な判断が可能になった。

●音声伝達と比較して齟齬が生まれる可能性が減った。

●新しい隊員が参加する際の負荷が減った。



※地図（紙）をスマホへ搭載

※アプリ地図上で、隊員の軌跡や位置等を確認

●農務課農林整備係

林道管理業務の課題として、「紙の地図を持っていく必要。」「情報共有アプリなど

使用していたが、被害地点が正確にわからず、写真を撮った位置も把握しづらい。」「林道の被害状況のとりまとめに時間を要する。」などがありました。ＬｉｖＭａｐを活用することで、現場の状況写真が位置情報とともに地図上に登録することできます。また、現場確認したルートを軌跡として記録することができるなど、効率的な林道管理業務が可能となります。

できること

●保有している林道マップを　ＬｉｖＭａｐ上に搭載。その上で、作業地点、写真、軌跡などを共有化。

●大雨後の現場確認の際は、被災状況を把握する目的で、路肩の崩壊箇所等を写真で共有化。

●森林経営管理制度に基づいた森林管理における調査業務で利用予定。

効果

●現場の被害状況について、視覚的に全体像を把握できるようになった。

●位置情報や写真が地図上で即時かつ正確に共有することが、通行止め等の対策が迅速に対応できるようになった。

●林道の情報が作業負担なく、パソコンで管理できるようになった。







※　アプリ地図上に写真を登録　⇒　グループメンバーは位置情報とともに写真の確認が可能

【お問合せ先】
豊川市役所　産業環境部　商工観光課　産業振興係　　柴田・橋本
TEL:0533-95-0263 E メール：shoko@city.toyokawa.lg.jp